

日本のピクトリアリズム

THE PICTORIAL LANDSCAPE IN JAPANESE PHOTOGRAPHY

風景へのまなざし 1992年8月28日[金]—10月13日[火]

東京都写真美術館
Tokyo Metropolitan Museum of Photography
〒150 東京都渋谷区恵比寿4-19-24 TEL.03(3280)0033



福原路草「奥日光」1940

日本のピクトリアリズム

THE PICTORIAL LANDSCAPE IN JAPANESE PHOTOGRAPHY

主催:東京都写真美術館/開館時間:午前10時-午後6時
(入館は5時30分まで)/休館日:第2・4水曜日(9月23日は開館し翌日休館)/観覧料:一般・大学生200(160)円
小・中・高校生100(80)円()内は10名以上の団体料金/
展覧会のご案内:03(3280)0099(テレフォン・サービス)

写真術が発明された当初から、写真の芸術性への問いかけがなされ、19世紀末には、伝統的絵画の主題や構図を表面的に模倣することを越えて、写真をひとつの「絵」として自立させようとする「ピクトリアリズム」の表現が成立しました。

わが国においても、明治時代後半から写真の普及と共に登場したアマチュア写真家たちによって「芸術表現としての写真」の方途が模索されはじめ、大正時代にはゴム印画やプロムオイルといったピグメント印画法やソフト・フォーカスの表現を駆使した作品が数多く生み出され、「芸術写真」の名のもとに日本独自のピクトリアルな写真表現が確立しました。この潮流は昭和の近代写真確立の時代の中にあってもさらなる展開を示し、わが国の写真芸術に豊かな実りをもたらしています。

本展では、その特徴を「風景」へのまなざしの中にとらえ、日本人による自然観照の世界が写真表現としていかに獲得されていたかを見ようとするものです。

<フロアレクチャーのお知らせ>

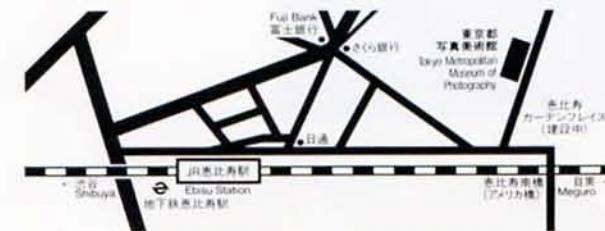
- 第1回: 9月 6日[日]午後2時~
- 第2回: 9月18日[金]午後4時~
- 第3回: 9月26日[土]午後2時~
- 第4回: 10月10日[土]午後2時~

<講演会のお知らせ>

テーマ:「ピクトリアリズムの世界」
日時:10月2日[金]午後4時~6時
会場:東京都庁・都民ホール(都議会議事堂1階)
東京都新宿区西新宿2-8-1
講師:飯沢耕太郎(写真評論家)

<次回展覧会予告>

「アジェ、マン・レイ、ブラッサイの巴里 1920-40年の写真世界」
会期:10月23日[金]—12月8日[火]



●JR恵比寿駅東口改札より徒歩8分 ●お車でのご来場はご遠慮下さい。

東京都写真美術館
Tokyo Metropolitan Museum of Photography
〒150 東京都渋谷区恵比寿4-19-24 TEL.03(3280)0033



桜井栄一「郊外初冬」1938



大久保好六「霜の朝」1926



福森白洋「長汀(海村五題I)」1924



大橋松太郎「題不詳」n.d.